

## J Aみやぎ仙南「田んぼの生きもの調査交流会」

日時：2008年6月28日（土）

主催：J Aみやぎ仙南

参加者：J Aみやぎ仙南、J Aふるさと米部会（生産者）、東都生協、J A全農



### 丸森町の豊かな自然、その自然に育まれた生きもの達の恵み、「ふるさと米」

6月28日（土）、宮城県のJ Aみやぎ仙南管内、丸森町地区において、「田んぼの生きもの調査交流会」が開催されました。

この交流会はJ Aみやぎ仙南と東京都に本部がある、東都生活協同組合の夏の産地交流会の一環で行われました。

参加者は生協組合員家族18名、地元ふるさと米部会農家やJ A職員約20名で、J Aと全農S R推進事務局職員が講師となって開催しました。

東都生活協同組合の組合員家族が現地到着後、地元丸森町の町長やJ Aの舟山健一代表理事専務から歓迎の挨拶があり、昼食後早速生協向けに生産している「ふるさと米」の田んぼで生きもの調査を開始しました。

当J Aでの生きもの調査は今年で3年目、また生協との産地交流会での生きもの調査も昨年に続き2回目で、J A職員も調査器具の使い方や、田んぼの生きもの観察の仕方に習熟しており、参加した生協組合員からの質問などにも丁寧に応えているのが印象的でした。

当日確認した田んぼの生きものは、ヤゴや松藻虫など38種類に上り、特にオタマジャクシやアマガエルの多さに、参加者一同びっくりしました。

生協の組合員の皆さんからは「実際にこんなにたくさんの元気な生きものが確認でき、こうした田んぼから生産されるお米を食べていたことに、改めて感激し、安心しました」

などという感想・意見が出ました。

また、JA「ふるさと米」部会長の内田部会長は「お米を作っている田んぼを生協の方々  
に実際に見てもらおうこと、お米が多く生きものと一緒に育つことを確認してもらおうこと  
が我々農家の使命であり、やりがいです」と語ってくれました。

JA みやぎ仙南では今後も生きもの調査を継続的に行い、地域での田んぼの生きもの指  
標化を目指しながら、環境に優しいお米作りを一層進めるよう計画しています。

#### ●見つかった生きもの達 (ラインセンサス・ランダム調査)

オタマジャクシ、日本赤蛙、東京ダルマ蛙、雨蛙、ユスリカ、イトミミズ、丸タニシ、  
逆巻貝、ヒメモノアラガイ、チビゲンゴロウ、松藻虫、血吸いビル、姫アメンボ、  
アメンボ、ケシカタビラアメンボ、ヤゴ類、秋アカネ、青紋糸トンボ、稲水ゾウムシ、  
ツマグロヨコバイ、イネ泥負い虫、ホソハリカメムシ、子守グモ類、アブの幼虫、  
細ヒラタアブ、菱バツタ、イナゴ類、トビ虫、川ニナ、ドブシジミ、ドジョウ、ツバメ、  
スズメ、カラス、セキレイ、キジバト、トンビ、コジュケイ (計38種類)

#### ●結果から

丸森町は宮城県の最南端に位置し、町の北部を阿武隈川が西から東へ貫流し、その流域  
は平坦地となっていますが、支流周辺は標高500mほどの山脈に覆われ、町面積の約  
70%を山林が占め、四季が織りなす自然豊かな盆地状の町です。

こうした地形から、山脈側から流れる清水と阿武隈川からもたらされた、豊かな土壌が  
昔から美味しいお米を生産してきました。

さらにJAは東都生協向けに化学肥料や農薬を極力少なくして、田んぼの生きもの力を  
利用したお米(コシヒカリ)生産に取り組んでいます。

今回の調査でも合計38種類の生きものを観察することができ、また、「ラインセンサ  
ス・ランダム調査」に先立って行った、「生息環境調査・イトミミズ/ユスリカ調査」でも、  
EC(電気伝導度)0.097mS、DO(溶存酸素量)8.1mg/l、イトミミズ出現数  
が350万匹/10aを記録しました。

特に、参加者はアマガエルの多さにびっくり、田んぼでも畦でもカエルを踏まないよう  
に注意して調査を行っている姿が印象的でした。

最近3年間の調査実施で、JAみやぎ仙南の職員は調査器具操作や調査手法・指導にも慣  
れており、今回のような交流会のみでなく、今後継続的な調査を行って、地域の生きもの  
指標作成に取り組んでいくことを期待しています。

(JA全農SR推進事務局 大村 茂)

以上